



視点

「新潟サークル」再出発！

—包括的性教育の学びで拓く

「自分らしく生きる」がかなうまちづくり—

思えば、「性教育」に興味をもったのは看護学生の頃。自分の周りに、様々な家族背景の中で生きる友人や、中絶を繰り返す友人がいたことをきっかけに、性教育の必要性を漠然と感じ、卒業研究のテーマに性教育を選んでいました。養護教諭と保健師のどちらを目指すか悩みつつ、子どもたちを取り巻く社会課題の「予防活動」をしたいと考え、保健師となりましたが、市町村保健師という立場では性教育を学ぶ機会も実践する機会もなく時が流れました。

そんな中、結婚をきっかけに転職をしたまちでついに性教育実践の機会が！そこから改めて、私の性教育の「学び直し」が始まりました。様々な性教育講座を見つけては受講していましたが、京都の助産師渡邊安衣子さんの性教育との出会いは衝撃的でした。「人権」をベースに、科学的に語られている性教育に初めて出会った私は、「なんて分かりやすく、役立つ話なんだ！」と一瞬でとりこになりました。

私は当時児童福祉の部署に所属し、虐待やDV、不登校や非行や性被害といった、地域で暮らす人々の「生きづらさ」を目の当たりにしていました。また、起きた後の対応しかできない現状にモヤッとし、それらを予防するにはどうしたら良いのかを考え続けていました。

そんな時に出会った「包括的性教育」は、まさにそれらの解決の糸口になり得る、誰にとっても必要な学びだと思えたのです。さらに渡邊さんの講座の中で性教協の存在を知り、書籍を購入したり講座に参加したりしながら少しずつ学びを深め、2023年3月に勇気を出して性教協に入会しました。

入会して半年ほど経ったある日、見知らぬ電話番号から着信が…。怪しい人からかもと、そのままにして翌朝を迎えると1通のショートメッセージ。メッセージにはなんと「昨日お電話差し上げた性教協代表幹事の水野と申します。」と…。「えっ？あの水野先生？本物？」と若干震える手で急いでメッセージを返したことを今でも鮮明に覚えています。

いただいたメッセージには、活動停止中の新潟サークル再開の旨が書かれており、嬉しくてワクワクとドキドキが止まりませんでした。お電話をいただいてから3か月。水野先生と前代表平良木さんの働きかけのおかげで、2023年11月19日に新生新潟サークルが再び動き出しました。

県の端から端まで東京一名古屋間と同じ距離のある新潟県。縦に長〜い県の各エリアから職種もバックグラウンドも年代も様々な仲間が集まりました。これから新潟サークルの皆さんと、どのような学びや実践ができるかととても楽しみです。それぞれのフィールドでの情報や視点を共有しながら学びを深め、様々な場所や対象に「伝える」ことに加えて、県内において包括的性教育の取組みをどう推進するか、その仕組みや仕掛けや連携を考えながら、「まち（地域）づくり」の視点を持って活動していきたいと思います。生まれたての新潟サークル、楽しく進んでいきます！



霜鳥めぐみ
(新潟サークル 保健師)